

平成29年3月7日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス  
代表者名 代表取締役社長兼CEO 此下 竜矢  
(コード2388 東証 J A S D A Q 市場)  
問合せ先 開示担当 小竹 康博  
(TEL 03-6225-2207)

### GL、シンガポールとキプロスでの取引について明確に説明

当社の重要な子会社でありますSET(タイ証券取引所)上場のDigital Finance会社Group Lease PCL(以下GL)は、シンガポールとキプロスでの取引が拡大していることについて、その内容をプレスリリースにて公表いたしましたので、日本語にてご紹介いたします。

(以下、GL社公表のプレスリリースの翻訳)

タイ証券取引所(SET)上場企業でDigital Finance事業を展開するGroup Lease Public Company Limited(以下、GL)の経営幹部は、様々な商品やサービスをGLのファイナンスにて顧客に提供し、信頼関係のある長期事業パートナーのディーラーに対する貸付と未収利息(2016年末において3,477百万タイバーツ相当)が拡大していることを明らかにした。

「これらの貸付は、オートバイ、農機具、ソーラーパネルや様々な家電製品を扱うディーラーに対して提供しているものであり、彼らの多くは我々の事業パートナーであり、株主になっている。彼らは信頼する価値がある。」と本日(2017年3月6日)、GL会長兼CEOである此下益司氏は述べた。

更に此下氏は以下のように加えた。「私の一番の関心は、我々の顧客との関係である。我々はディーラーである彼らの事業の性質や要求を理解する必要がある。この点において、我々のディーラーの多くは、我々とリースやファイナンスサービスにおいて3年以上の十分な信頼関係を持っておりSMEローンが拡大していることは全く合理的であり、我々は非常に歓迎している。」

2016年度の財務諸表における監査法人からの意見に関して、投資家から、取引における透明性についての質問があがったことに対して、此下氏は声明を発表した。その声明によると、質問にある貸付と未払利息は、GL株式や他の資産(キプロス共和国(以下、キプロス)及びブラジル連邦共和国の不動産や担保としての国債)の組み合わせを利用しているシンガポール共和国(以下、シンガポール)とキプロスにおける2グループの借り手によって拡大しているという。

この投資家の間にある懸案事項が、ここ数日間におけるGL株価の急落の一つの要因であると考えられる。

GLは、非常に有効且つ低コストのビジネスモデルであるDigital Finance Platformを導入することにより、本拠地のタイからアジアの近隣国々へ積極的に拡大し、より多くの草の根経済圏の人々にリースサービスを提供している。更に、GLは、エンド顧客に様々な商品やサービスを提供している中小規模のディーラーも対象とすることにより、貸付ポートフォリオを拡大してきた。

それらの中小規模（SME）ディーラーへの貸付は、ここ数年のGLの利益の拡大に貢献してきた。直近の業績（2016年度）において、GLは2015年度から82.34%増となる1,062百万タイバーツの年間最高益を記録した。

監査法人からのSMEローン返済期間の延長に関する意見について、此下氏は、貸付はまず、1年満期の3ヶ月毎のロールオーバーにて行われている。その後、貸し手の信用力を判断し、良ければ、返済期間は3年満期の1年毎のロールオーバーに延長される。

なぜシンガポールとキプロスで行われた取引なのかという質問について、此下氏は、その2ヶ国における税制面での優遇制度を理由として挙げている。

以 上